

ときめき人

Tokimeki bito



すこっぷ三味線通じ 「和の心」を 多くの人に伝えたい

追町・一市

若葉 舞さん

わかば・まい
(本名 大友 愛穂さん)
1981年生まれ 血液型/O型

Profile

幼少期から舞踊を始め、1995年に名取を取得、2014年から新日本舞踊若葉流の筆頭師範を務める。16年からは、民謡歌手の祖母が歌った「東北新幹線音頭」「米ぶし」で、歌手としても活動中。



すこっぷ三味線に興味がある人は、若葉舞音楽事務所まで ☎090(9425)9643

「体中の血が騒ぎ、心が震えました」と振り返る若葉さん。母が経営する喫茶店で「すこっぷ三味線」の生演奏を聴き、その場で演奏者に教を仰いだ。

すこっぷ三味線は、宴会芸として始められたのが起源とされている。スコップを三味線、栓抜きをばちに見立て、曲に合わせてたたいたりこすったりする。「簡単そうに見えますが、きれいな音はなかなか出ません。悔しくて、来る日も来る日も練習に明け暮れました」と間口の広さと奥深さを話す。

弟子入りして間もなく、師が脳梗塞で倒れる。同門の弟子らと代打でイベントなどに参加するが、師との違いは明白。日の浅い演奏者に送られた拍手はごくわずかだった。それでも腐ることなく、練習と本番の日々を繰り返していった。

名が売れ始めた17年12月、青森県五所川原市で開かれた「第11回すこっぷ三味線世界大会」に出場する。曲は「津軽情話」。この日のために何百回と繰り返し練習を重ねてきた。左手で棹をつかみ、曲に合わせて上下させる。独特のばちさばきで、スコップとは思えない音色を奏で、客席からたくさんの歓声と拍手が送られた。結果は優勝。「真っ先に先生の顔が浮かんだ。あの時の師の演奏が、ここまで私を連れて来てくれました」。

現在は指導する立場になり、生徒の数も増えている。「すこっぷ三味線のルーツは、和の伝統文化。伝統文化の素晴らしさを、スコップと栓抜きで多くの人に伝えたい」。若葉さんの歩いた後には、新芽が出始めている。

編集後記

▼広報誌の発行は、市民や関係者、上司、同僚、印刷屋の皆さんなど、オールto meの力があってこそ。今号を最後に異動することに。万感の思いを胸に、関わった全ての皆さんに感謝してペンを置きます。(及川)

▼4月から別部署に異動となりました。この2年間たくさんの方に迷惑をかけたことが、支えられたことに深く感謝しています。これまでお世話になった皆さま、本当にありがとうございました。

(千葉)

▼三寒四温を繰り返した、また新しい季節を迎えました。広報担当者も、新メンバーに変わります。環境の変化が速すぎる時代ですが、変わらない登米市の良さを、これからも伝えていきたいと思えます。

(伊藤)

▼新しく担当することになりました。初取材は認定こども園の入園式でしたが、園児以上に緊張しました。初めての広報担当ですが、子どもたちに負けないよう成長していきます。よろしくお願います。(小野寺・高橋・三浦)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

